

市民公益活動を支援します！

CNSuita

市民ネットすいた Civil Network Suita

ニュース No.11

発行日 2014(平成26)年6月1日

発行所 NPO法人市民ネットすいた
(吹田市立市民公益活動センター指定管理者)

みんなで創る新しい地域のカタチ あいさつから始めるまちづくり

本号では、NPO法人市民ネットすいた総会記念セミナーとして、去る5月18日にラコルタで開催しました中川幾郎先生の講演抜粋を特集しました。(文責編集部)

市民として地域への愛着を

私は今日まで、先代以来ずっと吹田のお隣の豊中に生まれ暮らしてきましたので、土地に根差して生きる人の気持ちは骨身にしみるほどよく解ります。そういう立場から、コミュニティに非常に関心をもっているんですが、日本社会が高齢化し地元のお世話役が減り、個人化してきて、地域社会の脆弱性が顕著になってきているため、最近小学校区単位で総合型住民自治協議会の組織化を進めようという自治体が非常に盛んです。地方では死活問題として合併統合も進んできましたが、大都市周辺、大阪でいえば堺・豊中・吹田などは遅れていて、「特に今のままで問題ない」と非常に危機感が希薄です。問題が表面化してからでは遅いのです。まず、阪神淡路大震災のときから神戸周辺はコミュニティの再編成が進み、変わりました。次いで平成の大合併で、多くの自治体が危機感を持って合併に踏み切りました。東日本大震災でも災害時の救援対策、災害弱者対策にコミュニティが重視されました。戦後の高度成長とともに、地域社会での



講師紹介

中川 幾郎氏

手塚山大学名誉教授

著書「コミュニティ再生のための
地域自治の仕組みと実践」

町内会や自治会などの地域組織、子ども会・青年会・老人会などが、都市部から消滅しつつある。個人のプライバシー重視で、事件や災害のときにもお互いに声もかけられない。これでは犯罪や災害時の危険が倍加してしまう。地域社会を総合力のあるカタチに変えていかないと……。『安全・安心』の安全は防災・防犯で、安心は福祉につながりますが、役所に期待しても行政には十分な解決能力がないのが現実なんです。

日常の挨拶で防災・防犯も防げる

自治会員とか、日頃から知っている人であってもなくても「おはよう」「こんにちは」「こんばんは」の挨拶を交わすだけで、災害や犯罪も防げるんです。全国共通で、自治会連合会長の平均年齢は上昇しています。調べてみると、60代が1/3、70代が1/3、80代が2割です。こうなると頭は動いても身体は動かない。60代で定年退職した人が地域社会に軟着陸できていない。「今、このままで上手くいってるから困っていない」、では次世代のことを考えていないということです。その日暮らしの地域は弱ってきます。

地域自治への日常的貢献意識が大切

自治会、住民自治協議会、まちづくり協議会はホンモノの「市民」づくり学校と言われます。「市民」は、まちをつくる、まちを守る、まちを持続可能な姿で後世に残す「文化的・政治的存在」であり、食べる、寝る、排泄する生物的存在「寝民」や、稼ぐ、利益を得る、労働する経済的存在「居住民」とは違います。市民の責務とは①都市経営コストの分担・納税②都市自治への日常的貢献



熱心に聴き入る参加者の皆さん

③都市の危機に際しての自衛参画(都市を地域と置換えてみる)であり、ビジネスホテル滞在型やコンビニ利用型では困るのです。別な言い方をすれば、人間は、働くこと(Labor)と、社会に貢献すること(Work)と、行動すること(Action)。この3つの行いをしなければ本当の市民としての人材性は達成できません。地域にあっては、貢献すること、そして、何かあったときには行動することが当たり前のことなのです。また、自治会や住民自治協議会は、NPOなどのアソシエーション型組織、人材との多様な接点が必要です。専門的な技術、能力、ネットワーク等連携していくべきです。

「コミュニティ」と「アソシエーション」は違う

重要なポイント、コミュニティ(地域共同社会)型思考とアソシエーション(NPOなどの組織)型思考は根本的に違います。混同してはいけません。

「コミュニティ型思考」は、共和主義的、全日的、総合的、宿命的、暗黙の承認、安全・安心、共同感情によるもので、「アソシエーション型思考」は、自由主義的、定時的、専門的、契約、多数決、幸福・自立、共同課題を追及します。



行政(団体自治)と地域自治について

行政は、消防・警察など「団体自治」で、官僚的で「タテ割り組織」になりやすく、「地域(住民)自治」、住民の生活は、朝から晩まで、生活の全体について考えないといけない。全部複合化しているんです。地域自治の働きが高くなるほど安全係数があがっていきます。プロとは、お金を稼ぐ稼がないにかかわらず、責任を持つ人、期日に責任を持つ人のことです。地域が持つ人材・組織・能力、そして器材や施設等の資源を利用して、活性化していくことが大切です。

自治会・町内会の活性化のために

自治会への加入促進策は、まず、あいさつ運動と楽しみづくりが大切です。そのためのイベントを実行する。自治会歓迎イベントや、卒業・成人記念イベント、パーティー、お祭り行事など。これが地域にとっての防災・防犯訓練にもなるのです。事務局をつくって、広報紙等を充実するのもいいですね。市民同士が仲良くしていくためには目的や情報を共有し、相互理解、信頼関係を築き対立構造を作らないことです。元企業で役職にあった人たちは、会社時代のことを話しがちですが、上から目線は通用しません。住民自治組織には関係ないので。地域の小さな成功を積み重ねて、スケジュール管理をしながら、スピードとタイミングなどが大事です。

地域社会の「まちづくり」の順序

- (1) 安全・安心のまちづくり(防犯・防災)
- (2) 人に優しいまちづくり(ユニバーサルデザイン)
- (3) 活力あるまちづくり(コミュニケーション、経済、産業)
- (4) 学び、美しさ、モラル(生涯学習、美観、倫理性)
- (5) どこにもない個性的まちづくり

まず、挨拶運動などによる安全・安心のまちづくりが一番大切で、活力や美しさや個性的なまちづくりは、その土台の上で考え実行していくことです。

協働型地域社会の元気・魅力アップには

- (1) 地域社会でないとできないこと、行政でないとできないことの仕分けをしましょう。
- (2) まちの「縁側」、「たまり場」づくりをしましょう。
- (3) 課題別、地域別事業から、青年会、子ども会など「世代別事業」を開拓しましょう。
- (4) まちの「見守りマップ」づくりに取り組みましょう。災害や事故が起こってから名簿をつくってもあとの祭り。

以上、質疑応答も含め、豊富な体験をもとに2時間余り熱意あふれる講演をいただき、聴講者一同共感そのもの……。本当に有難うございました。

(講演記録完)

まちづくりの 夢叶えるために

NPO法人 J R吹田駅周辺
まちづくり協議会
「略称：まち協」
専務理事 鈴木 真世



「まち協」は地域の人たちがまちのビジョンを描き、市民、事業者、行政が課題を共有し、協働して実現していくための組織です。JR 吹田駅周辺の商店街、コミュニティー施設・大学・メディア関係者、行政などが集まっています。まち協の



事業は、ハードとソフトの両輪で動いています。ハードの課題は老朽化した商店街の建替です。100 店以上が再生するビッグチャンスですから、一日も早く着手するため、今年度は具体的な青写真を描きます。ソフト事業では、食べ歩きイベント「吹田バル」が今年 3 回目です。一過性の祭でなく、見つけたお気に入りの店のリピーターになってもらい来街者を増やすことが狙いです。バルを共催した商工会議所の青年部は、多様な職種のスペシャリストが揃っているのも、まち協に強い味方ができました。2 月のシンポジウム後、まち協に女子部もできました。

今後、ソフト面では「まちの魅力」を伝えるネット発信に力を入れます。またこのまちで何か始めたい人を応援しているので、いつでもご相談ください。



5人でスタートした女子部

吹田の環境・自然に 関心を持って

特定非営利活動法人
すいた市民環境会議

監事 下村 敬三



永年の、サラリーマン生活を終えて気が付いたら、会社と家の往復だけで、吹田に何があるのか全く無認識でした。友人に勧められて、SGC（すいたシニア環境大学）に入り、1 年間環境の勉強をしました。現職時代は環境保全の意識はなくどちらかと言えば破壊の方の仕事をしていました。

SGC 卒業後は、SELF、くるくるプラザ、アジェンダ 21 すいた、すいた市民環境会議等の団体に所属して、現職時代には全く無縁の、市民活動を始めて約 7 年になりました。その間、吹田のごみ事情、食糧のむだな廃棄をなくそう、家電の不法投棄の現状説明等の講座を、小学校、公民館、博物館、くるくるプラザ等で行ってきました。

また、すいた市民環境会議では、吹田のまちなみ散策、大木、希少種、野草、森のクラフト等の活動に参加して、吹田の環境、自然、などの認識を持つようになってきました。最近では、復興支援すいた市民会議のお手伝いをしながら、東日本大震災復興支援に微力ですがかかわっています。

今回、市民ネットすいたに入会して、また違った市民活動ができればと思っています。自分自身の考えかたとしては、個人のしたいことは、受益者負担が原則と思っています。しかし、何らかのかかわりがあれば、お互いに助け合う。出来る人は、それを惜しまないと思っています。どこまでできるかわかりませんが、頭と体がついていくまで、環境と自然と、人にかかわっていきたいと思います。



大木を測る下村さん

NPO法人市民ネットすいた 2014 年通常総会報告

5月18日(日)午後1時30分からラコルタ(吹田市立市民公益活動センター)会議室において、2014年度通常総会を開催しました。

委任状も含め40名の出席の下、尾浦英久子議長により、つぎの議案が審議されてすべての議案が承認されました。

- 第1号議案 2013年度事業報告承認に関する事項
- 第2号議案 2013年度決算承認に関する事項
- 第3号議案 2014年度事業計画承認に関する事項
- 第4号議案 2014年度予算承認に関する事項
- 第5号議案 任期満了に伴う役員改選の件



特に、2014年度事業計画において、市民公益活動団体を取り巻く社会環境や求められる役割の変化を把握し、当法人の目的・使命を見直し、活動・事業の中長期的な方向を見出す努力をすることになりました。

その中でも、地域課題の解決に積極的に取り組み、具体的な成果を出せる市民公益活動の拡充を図るとともに、新しい担い手が生まれる活動・事業を企画・推進していくことを掲げています。

また、吹田市における市民公益活動促進施策の評価・見直しに取り組むとの抱負を述べています。

.....

なお、総会終了後、午後3時30分より、1,2面で紹介しました中川幾郎先生による「みんなで創る新しい地域のカタチ」についての講演会を開催し、先生の実体験を踏まえた明快でテンポのよいお話に、満席の参加者の皆さんも熱心に聴き入っていました。

その後、中川先生を囲む懇親会をスマイルホテルで開催し、盛会裏に相互の親睦を深めることができました。



私たちの活動の一端

私たちの活動は、ラコルタの運営だけではありません。今年度の事業計画にも盛り込まれた地域課題の解決に向けた取り組みなど、ラコルただけでは取り扱えない事業も行います。

そのためには、市民ネットすいたの会員のみな

さんの協力が必要です。たとえば、私たちの活動をみなさんにお知らせするホームページやニュースレターの制作です。現在、これらの活動は「広報委員会」を設けて行っています。

今後、事業企画委員会を設けるなど、会員のみなさんと一緒に活動に取り組んでいきます。

編集後記・6月、草木長じ入梅の季節。市民ネットすいたは設立から4年目を迎え、ラコルタは開設から1年9カ月になりました。ラコルタは市民や市民公益活動団体の皆様の利用度も日ごとに増加しています。・既存の団体への支援はもちろん、新たに市民公益活動に参加する、あるいは新しい団体を立ち上げる。など何なりとご相談ください。・2014年度期の始まりに当たり、ラコルタともども実り多い年になりますよう地道な努力を続けてまいります。

CNSuita ニュース
NPO法人 市民ネットすいた

ホームページ [市民ネットすいた](#) も検索ください

事務局 〒565-0862 吹田市津雲台1-2-1
千里ニュータウンプラザ6階

TEL 06-6875-7459
FAX 06-6875-7461
E-MAIL mail@cnsuita.com

情報のご提供、ご意見などお寄せください。